

広報いわたき

1/12
高山市
新成人を祝う集い

新成人の皆さんに20歳の思
いを聞きました。

●発行者●
岩滝まちづくり
協議会
Tel 31-1073
FAX 77-9409
メール
iwataki@hidataka
yama.ne.jp



中家小兵衛会長 川尻好明連合町内会長 新井美保先生 岩島温子校長先生
牧田祐太郎さん 川尻りかさん 和田彩花さん 平岡悠さん

平岡 悠
無事に成人を迎えることができ
ました。成人を迎えることができ
たのは、今まで支えてくれた、家
族のおかげです。今までの感謝の
気持ちを伝えられるよう今まで以
上に家族との時間を大切にしてい
ます。
また、社会人として常識ある大
人になれるようより一層、自分の
行動に責任をもちに社会に貢献で
きるよう努力していきます。

牧田祐太郎
家族や友達、地域の方々に支え
ていただきながら成人することが
できました。私は自然豊かで人が
明るく過ごしやすい岩井町で生ま
れ育ちとても光栄に思います。
私は今、大学生です。将来は人
のためになれる仕事に就き、たく
ましい大人として歩いていきま
す。

和田 彩花
二十歳になり、成人式を迎える
ことができ、大変うれしく思
います。これまで家族や友人、地域
の皆様、たくさんの方々に支えら
れた事に感謝しています。
私はまだ大学生としてあと二年
あるので、自分を成長させられるよ
うに頑張ります。
また、将来についてよく考え、

クエスチョン 知っていますか。これは何でしょう？



落合橋のたもとの落合バス停と、電話ボックス
の間に、石でできた墓のようなものがありますが、
いったい何でしょう。



次の3つの中からお選び
ください。

- ①慰霊碑 (いれいひ)
- ②道標 (道しるべ)
- ③お墓

答えは次のページに。

なりたい自分になれるように過
したいです。
川尻 りか
無事、成人を迎えることができ
ました。この20年間周りの人に
助けられながら、沢山の経験をす
る事ができました。
いつでも支えてくれる家族、友
達に感謝しながら、夢を叶えて後
悔なく過ごしたいと思います。

正解は

安永の大原騒動の慰霊碑（供養碑）です

落合橋を通るたびに「これは何だろう」と思っていました。長寿会の皆さんがグラウンドゴルフをしてみえるときに聞いてみると、「駕籠訴の墓」という話を聞いたことがあるという方が大勢みえました。

すると、大下和男さんが、「昔、大原騒動のときに、こちらへんの百姓を代表して亡くなった人の霊を慰めるための慰霊碑で、岩滝のものは大事にせんならんものや。以前は、和田茂兵衛さん（和田茂夫さんの父）が草刈りをしたりお経をあげたり掃除をしたりして手入れして、よく参ってみえた。このことは、大八賀村史に載っとる。」と、話して下さいました。

和田茂夫さんに聞いてみると、「昔は、20〜30mくらい塩屋寄りの山手の少し高いところにあつて、青年の家へ行く道路ができるときに今の場所に移した。」と、話して下さいました。

早速、大八賀村史で調べたり、高山陣屋に展示してある資料などで調べてきました。

大野郡義民
←（安永二年）十二月二十七日



右側面



正面

↑南無阿彌陀佛



左側面

→吉城郡義民

江名子孫次郎
かたのてんしち
片野伝七
まきがほらせんじゅうろう
牧ヶ洞善十郎
まえはらとうえもん
前原藤右工門
まちかたじへえ
町方治兵衛

安永2年は1773年。
今から約250年前のことです。

舟津太郎兵衛
かねおけしんぞう
金桶甚蔵
やまもとひこへえ
山本彦兵衛
おおぬまきゅうざえもん
大沼久左衛門

丹生川の吉城郡に属していました。

石碑の文字がかなり風化して見にくくなっていますが、大八賀村史をたよりにすると、右側に5名、左側に4名、あわせて9名の名前が刻まれています。当時の飛騨は、吉城郡・大野郡・益田郡の3つがありました。江戸時代の百姓は苗字がなかったためか、地名の後に名前をつけてあります。地名は村の名前で、今の地名でいうと、

- △孫次郎は高山市江名子町
 - ▲伝七は高山市片野町
 - △善十郎は高山市清見町
 - △藤右工門は高山市前原町
 - ▲治兵衛は丹生川町町方●
 - △太郎兵衛は神岡町
 - △甚蔵は国府町金桶
 - △彦兵衛は国府町山本
 - ▲久左衛門は丹生川町大沼
- の人で、お墓も残っています。この9名の方々は、どうして亡くなったのでしょうか。また、大原騒動とはどんな事件だったのでしょうか。

大原というのは、当時飛騨を治めていた代官「大原彦四郎」の名前で、暮らした農民たちが、代官を相手に起こした集会や一揆の結果、大勢が処罰されて亡くなった事件です。9名のうち、▲印3名は牢に入れられているうちに亡くなった方。△印6名は打ち首でした。

大原騒動とは

江戸時代のはじめは関ヶ原の戦いで功のあった金森長近が飛騨を治めましたが、6代目頼岑のときに山形へ転封（国替え）になり、107年間続いた金森氏の時代は終わりました。

そして、飛騨は江戸幕府が直接治める「天領」となり、江戸から「代官」という殿様がやってきて治めるようになりました。

12代目の代官が大原彦四郎で、そのとき3回の大きな騒動が起こりました。1回目が明和騒動、2回目が安永騒動、3回目が天明騒動と呼ばれています。

落合橋そばの慰霊碑は、安永騒動のとき処刑されて亡くなった飛騨の百姓の代表9名を供養するためのものです。

安永2年（1772年）大原代官は、元禄の頃に調査してあった田畑の面積を測り直せば面積が増えて年貢をたくさんとれるだろうと考えて、まず花里村で3月に検地を始めました。そして、検地されなくなれば自分から3割増しの申し出をするように言いました。

4月、飛騨の各村の百姓は困って、元禄のときに検地を担当した大垣藩へ検地を止めさせて

ほしいと、代表約100名をお願いに行きました。これは、国を越えて他へ訴えたということと越訴の罪となり、首謀者とされた郡中惣代名主2名（大沼村久左衛門・町方村治兵衛）は捕らえられて江戸へ送られ、6月7月に二人とも江戸の牢で亡くなってしまいました。



そこで、飛騨の人達の代表6名は直接江戸の老中の乗った駕籠をねらって訴えよう（これを駕籠訴といいます）と、7月26日に駕籠訴を決定しました。江名子孫次郎・金桶甚蔵・牧ヶ洞善十郎・山本彦兵衛・舟津太郎兵衛・片野伝七の6名です。また、前原藤右エ門は直接屋

飛騨国大野郡前原村 藤右エ門首 41歳	同国同郡江名子村 孫次郎首 34	同国同郡金桶村 甚蔵首 32	但、立札銘々附、桐油の儀上附 同国同郡牧ヶ洞村 善十郎首 32	同国同郡山本村 彦兵衛首 35	同国同郡船津町村 太郎兵衛首 37	右の通たしかに請取 蕨宿へ 継送り申し候 以上 中山道板橋 問屋 豊田孫右工門	巳十二月十八日 南伝馬町 吉沢主計殿 大伝馬町 馬込勘解由殿
---------------------------	------------------------	----------------------	--	-----------------------	-------------------------	---	--

敷へ駆け込んできて訴えました。駕籠訴は成功し訴状は受け取ってもらえましたが、結局却下されてしまいました。そして、7名は捕らえられ片野伝七は牢で亡くなり、他の6名は12月18日に打ち首にされました。切られた首は塩漬けにされ、中山道を通って高山へ運ばれ、12月27日に万人講川原（高山市桐生町）で獄門（さらし首）にされました。

上の古文書は、高山陣屋に展示してあったもので、6名の名前が書いてあります。高山まで何日もかかるので、泊まった宿では、確かに首を受け取って次の宿へ送りましたと、証文を書いたわけです。

当時岩滝で代表になって捕らえられた人はなかったのだろうと思いますが、死罪になることを覚悟して訴えて犠牲になった人達を供養するために、岩滝の人達は落合橋のところに慰霊碑を建てました。

慰霊碑には、万人講川原にさらされた12月27日という日付が刻まれています。

歴史というと、有名な武将や、戦いなどに目がいきますが、飛騨の人々の暮らしを考えると、大原騒動についてもう少し調べてみたいと思います。

岩井神社本殿の棟札



岩井神社本殿

← 棟札 (長さ90cmほどありました。)

昔、岩井にはたくさん神社があつて、大八賀村史によれば、「大森の白山神社、中沢白山神社、和田の天満神社、西の若宮八幡神社、宮ヶ洞の愛宕神社が、明治四十年十月十八日神社統合令によってこの大森白山社へ合併し、岩井神社と称することになった。」と、書かれています。

この岩井神社の本殿は、屋根を手前に長く伸ばした一間社流造という様式で、高山市文化財指定の貴重なものですが、長い年月であちこち傷んでいたところを地元の方々が昨年修理され、9月の例祭のとき一般公開されました。そのとき本殿の下に、建物を建てたときにつける棟札が打ち付けたのを見つけて写真に撮ったのが左写真です。

安永五年(1776年)に建てられたもので、大工は名工と呼ばれた松田太右工門の弟子の東雲勘四郎です。

東雲勘四郎は、この3年後の安永8年には、日枝神社の本殿を建てています。

棟札の下のほうには当時の氏子21名の名前が載っています。

名主・組頭・山見という3つの役があります。山見とは山を見回る人です。ほかに18名の名前がありますが、今も屋号として残っているのではないのでしょうか。

岩滝の歴史は大八賀村史に少し出てきますが、どうも資料が乏しいようです。もしご家庭に古文書や昔のものなどがあれば見せてい

ただければありがたいです。

ところで、安永五年といえ、前ページの安永の大原騒動の3年後です。田畑の再検地が行われて年貢をより多く納めなければならなくなったこの時期に、岩井ではどうして立派な本殿が建てられたのでしょうか。しかも、名工東雲勘四郎の作です。

山見という役があったところを見ると、当時は田畑より山林での収入が豊かだったのででしょうか。

今回の広報は岩滝の歴史が中心になってしまいましたが、郷土の歴史・地理・自然などいろいろな角度から郷土を見てみることは発見があつておもしろいです。行方やイベントのことばかりでなく、今後も掲載していきたいと思

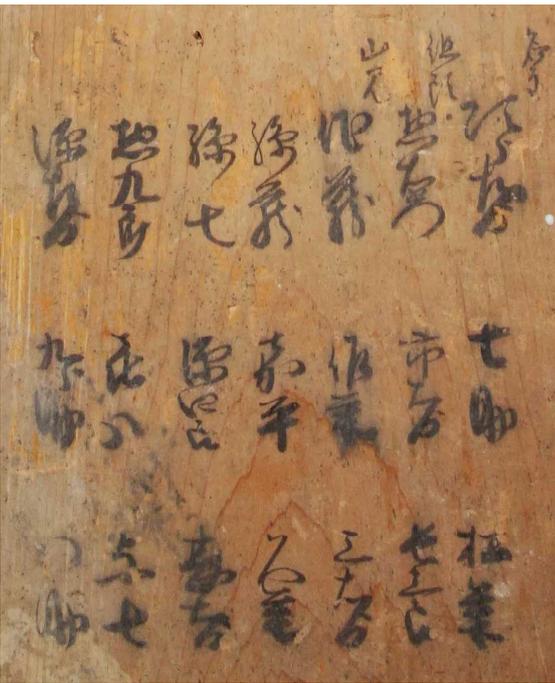


安永五年甲午南呂廿日上棟
奉造立白山権現一社
大工棟梁飛高山

東雲勘四郎

次籌

造立は、神社や寺を建てること。南呂は旧暦8月。廿は二十のことなので、西暦でいうと、1776年10月2日のこと(?)



飛騨国大野郡岩井村氏子中	名主	次郎左工門	七助	松兵衛
	組頭	惣右工門	市右工門	長三郎
	山見	作蔵	作兵衛	三右工門
		孫蔵	嘉平	久兵衛
		孫七	源四郎	勘右工門
		惣九郎	喜八	与七
		源左工門	九郎助	八助